

こつざい 交差点

骨材の安定性とは、骨材が本来持っている性質を長期間維持することであり、化学的な安定性はアルカリシリカ反応性試験によって判定することになる。物理的な安定性のうちすり減りについて



工学院大学名誉教授
阿部道彦

はすり減り試験により、また、気象作用(凍結融解作用)については安定性試験で判定することになる。

安定性を考える

る。1931年に米国試験材料協会の暫定規格として定められてから長い歴史を経ているが、ばらつきが大きいこと、浸漬・乾燥の繰り返し5回の必要など、コンクリートによる試験との対応が必ずしも良くないことなどが問題点として指摘されている。現在、コンクリート用砕石以外の砕石、人工軽量骨材およびスラグ骨材には規定されておらず、砂利・砂については購入者の指定によることとなっている。軽量骨材の凍結融解抵抗性については、コンクリートとしての実績や試験が開発が望まれる。

全国解体工事業団体連合会

高橋 仁副会長

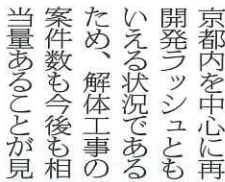
解体工事業の魅力発信

ガラ滞留し再生砕石活用を

東京など大都市部を中心に老朽化建物の解体に伴う再開発が進行しており、「解体」の必要性や重要性がより増してきているといえる。29番目の建設業種区分として「解体工事業」が新設、2022年度に登録基幹技能者講習の職種に「解体」が追加されるなど、解体工事業の専門「工事業」としての地位が確立されつつある。全国解体工事業団体連合会(全解工連、井上尚会長)は、業界の課題や基盤強化に向けた取り組みを展開している。全解工連の高橋仁副会長(東京建物解体協会(東解協)副会長)に、解体工事業界をめぐる最近の状況や今後の展望を聞いた。

——主要都市における解体工事の現状をお聞きしたい。

高橋副会長 東



京都市を中心に再開発ラッシュといえる状況であるため、解体工事の案件数も今後相対的に増加が見込まれる。ただ解体工事の労務不足は否めない状況にあり、状況を注視していく必要がある。また今年に入ってから発生した4件事故が、解体工事の安全管理と施工管理を両立させることが厳しくなっている。大規模な道路土木工事が減少しており、コンクリートガラを材料とした再生砕石(R

——コンクリートガラの滞留問題は大きな課題である。

高橋副会長 解体工

事が増え、必然的にコンクリートガラが大量に発生する。大規模な道路土木工事が減少しており、コンクリートガラを材料とした再生砕石(R

C)の出荷が停滞しており中間処理工場の処理能力も限界に近付き、コンクリートガラのリサイクル循環が崩壊しつつあり、「再生砕石クライシス」といえる状況にある。とくに東京圏では大きな問題となっており、近隣県に留まらず遠方まで搬出しているケースもみられる。東解協と建設関係団体、資源循環関連団体が連名で東京都に要望書を提出し、昨年末には都議会自民党との意見交換会を行っており再生砕石のさらなる活用をアピールしている。

——全解工連の活動状況を。

高橋副会長 23年度

から登録基幹技能者講習を開始している。25年度は3回に分けて講習を行うこととしている。今後、登録基幹技能者は、年間400〜500人の間で推移していくのではとみている。

登録基幹技能者は建設キャリアアップシステム(CCUS)におけるレベル判定も行っており、能力評価基準の最高位であるレベル4(高度なマネジメント能力を有する)を持つ技能者を増やしていきたい。

登録基幹技能者とは、登録基幹技能者講習を修了し、解体工事施工技術士も積極的に増やしていきたい。現在、約3万人の資格者が存在するが、これは建設業における民間資格ではかなり多い数字である。さらなるレベル

アップに向け、テキストの全面改訂を行うべきとの意見も出ている。一段階上の安全施工管理や現場の施工コントロールをできる技術者の育成も視野に入れ、より充実を図っていく必要があるだろう。

昨年、兵庫県で開催した総会では、今後の解体工事業界の将来像を描いた「VISION2024」を発表した。このなかでは、全ての発注案件で解体工事が解体工事業者に発注される「解体工事一式」の創設をめざすことを提示している。

——イメージアップも重要である。

高橋副会長 「VIS

ION2024」のなかにはブランディングを打ち出しており、解体工事業の魅力発信の重要性を提示している。取り組みの一つとして、青年部会を立ち上げることとした。これは業界の未来のために必要な取り組みであり、可能な限から立ち上げを図っていく。

23年度から行っている解体オペレーターの運転技術者を競う大会「DE-1ケランプリ」は、解体業のイメージアップ戦略のひとつといえる。また、今年6月に開かれる第7回国際建設・測量展(CSPI-EXPO2025)に、全解工連としての出展を検討している。これも魅力発信の一環として積極的に展開していきたい。

生コン

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	20,000	変わらず	変わらず
仙台	15,000	〃	1,000
東京	21,100	〃	1,000
名古屋	17,400	〃	2,100
大阪	25,100	〃	変わらず
広島	22,450	〃	2,000
高松	22,300	〃	2,000
福岡	19,550	〃	変わらず
平均	20,363	〃	1,013

※21N、18cm、25mm、㎡あたり

砕石

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	5,500	変わらず	300
仙台	4,500	〃	変わらず
東京	5,550	〃	200
名古屋	4,800	〃	変わらず
大阪	5,250	〃	650
広島	4,300	〃	変わらず
高松	5,200	〃	〃
福岡	3,500	400	400
平均	4,825	50	194

※20〜5mm、㎡あたり

砂

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	6,100	変わらず	300
仙台	3,800	〃	300
東京	6,350	〃	500
名古屋	5,650	〃	変わらず
大阪	6,050	〃	1,150
広島	4,300	〃	変わらず
高松	4,400	〃	〃
福岡	3,900	〃	〃
平均	5,069	〃	281

※荒目、洗い、㎡あたり

再生アスファルト混合物

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	13,950	変わらず	500
仙台	12,200	〃	200
東京	10,000	〃	300
名古屋	10,700	〃	変わらず
大阪	9,500	〃	〃
広島	12,000	〃	900
高松	13,600	〃	変わらず
福岡	10,800	〃	〃
平均	11,594	〃	238

※密粒度13(札幌、仙台は密粒度13F)、トンあたり。東京は14区(千代田・中央・港・世田谷・江戸川等)

道路用6号

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	6,500	変わらず	300
仙台	4,800	〃	変わらず
東京	6,000	〃	200
名古屋	5,500	〃	変わらず
大阪	4,150	〃	〃
広島	4,300	〃	〃
高松	5,300	〃	〃
福岡	3,800	400	400
平均	5,044	50	113

※13〜5mm、㎡あたり。東京は6区(台東・墨田・江東・荒川・葛飾・江戸川)

再生砕石

	3月上旬	前月比	前年同月比
札幌	2,900	変わらず	200
仙台	2,400	〃	変わらず
東京	1,150	〃	▲50
名古屋	1,900	〃	変わらず
大阪	1,050	〃	〃
広島	1,500	〃	〃
高松	1,900	〃	〃
福岡	1,800	〃	〃
平均	1,825	〃	19

※40〜0mm、㎡あたり

市況

建設物価調査会調べ